



令和4年3月25日

各位

上場会社名 株式会社 アイビー化粧品
 代表者 代表取締役社長 白銀 浩二
 (コード番号 4918)
 問合せ先責任者 取締役 経理部 部長 兼 経営管理部 部長 中山 聖仁
 (TEL 03-6880-1201)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、令和3年5月13日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

令和4年3月期通期個別業績予想数値の修正(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,200	500	480	400	79.16
今回修正予想(B)	3,520	100	96	62	6.84
増減額(B-A)	△680	△400	△384	△338	
増減率(%)	△16.2	△80.0	△80.0	△84.5	
(ご参考)前期実績 (令和3年3月期)	3,426	24	6	△23	△13.74

(注)「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月30日)等を、当第1四半期会計期間の期首から適用しており、前事業年度(令和3年3月期)に係る数値との比較については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値と比較しております。

修正の理由

当事業年度におきましては、新型コロナウイルス感染症の変異種が繰り返し流行し、それにとまなう緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出されている状況でした。当第4四半期会計期間においては、第3四半期累計期間までの売上高不足分を取り返すべく取り組み、強化製品「ホワイトパワー セラム」「レッドパワー セラム」および美白関連製品、令和3年9月に発売しましたシワ改善医薬部外品を含む「アイビーコスモス2 シリーズ(注4)」のリピート受注に取り組んでまいりました。

しかしながら、デルタ株の影響が残る中、急速なオミクロン株の流行により当初予定していた会議やイベント、研修、勉強会のほとんどが中止または延期を余儀なくされました。そうした状況を踏まえ、リモートによる会議開催なども活用し、営業活動に努めてまいりましたが、受注活動を十分に行うことが出来ませんでした。

上記状況により、当第4四半期会計期間においては、強化製品「ホワイトパワー セラム」の受注は、次年度におけるリニューアルを告知したことも影響し、目標16千セット(約312百万円)に対し、約7千セット(約140百万円)となりそうな状況です。また、強化製品「レッドパワー セラム」の受注も、目標6千セット(約234百万円)に対し、約2千セット(約86百万円)となりそうな状況です。美白関連製品も約207百万円の想定に対し約154百万円、「アイビーコスモス2(注4)」についても、約245百万円の想定に対し約148百万円となりそうな状況です。その他レギュラー製品も苦戦している状況です。

利益面においては、原価低減、経費使用方針に基づく予実管理を継続徹底しましたが、売上不振の影響が大きく、前回発表の利益予想とは乖離が出そうな状況です。

以上の結果、当事業年度の業績予想につきましては、売上高について前回発表予想の4,200百万円を3,520百万円に修正いたします。また、営業利益は前回発表予想の500百万円を100百万円に、経常利益は前回発表予想の480百万円を96百万円に、当期純利益は前回発表予想の400百万円を62百万円に修正いたします。

(注1)本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく変動する可能性があります。

(注2)「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月30日)等を、当第1四半期会計期間の期首から適用しており、前事業年度(令和3年3月期)に係る数値との比較については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値と比較しております。

(注3)1株当たり当期純利益の計算は、第2回新株予約権の権利行使による影響を加味し、普通株式の期中平均株式数を計算しております。また、当期純利益からA種優先配当の会計期間に係る支払想定額を控除して計算しております。

(注4)「アイビーコスモス2 シリーズ」の2は、正式にはローマ文字ですが、便宜上2と表示しております。当事業年度におき

ましては、新型コロナウイルス感染症の変異種が繰り返し流行し、それにとまなう緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出されている状況でした。

以上